

かゑらじと かねて思へハ 梓弓
なき数に入る 名をぞとどむる
四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第67号

平成30年4月10日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

3/23～24 上北山村・四位殿神社、現地学習

四條畷・金剛山・吉野山・上北山村をつなぐ正行

如意輪寺、加島副住職も参加

3月23日(金)～24日(金)の2日間、私たちは現地学習で、吉野郡上北山村を訪れた。

23日、四條畷駅に集まったのは会員6人。京橋、鶴橋で乗り換え、近鉄特急で、八木、橿原神宮前へ。前泊で京都に宿泊して参加した東京支部長の広木さんと合流、四條畷市と産経新聞社の主催で、3月19日に開催された楠正行シンポジウムの様子を伝える楠正行通信第66号や、タイムリーにも上北山村の四位殿神社を伝えるこの日の産経新聞朝刊などを見ながら、談笑もつかの間、大和上市駅に到着。

改札口を出ると、お誘いした如意輪寺の加島裕和副住職の出迎えを受け、全員が合流。チャーターしたジャンボタクシーに乗り込み、一路、上北山村へ出発。

1時間余りで上北山村の宿、熊野路荘に到着。若女将の出迎えを受け、手荷物をお預けし、上北山村の中垣内教育長、東さんが手配していただいた2台の車両に分乗して、いよいよ現地学習のスタートとなった。

龍川寺、自天皇の墓に参る

途中、今回の現地学習の道案内をしてくださる中岡孝之さんと合流し、まずは、龍川寺(南朝最後の後胤南帝北山宮が三種の神器の一つである勾玉を奉安し、南朝の御所となされた場所で、北山宮御陵墓が祀られている。)に入った。

ちょうど昼食タイムという事で、本堂でお弁当を頂くことに。ボリュームたっぷりの二段重ねの弁当、そして龍川寺の奥様手作りのお汁に一同感激。上北山村の地域振興課の遠藤課長、西岡さんも加わり、今回の現地学習の



ビデオ録画も始まった。我々の訪問を機に、上北山村の歴史・文化を語る中岡さんのお話をビデオにとり、資料として残されるとのこと。

中岡さんは、自らが描かれた龍川寺の俯瞰図を示しながら、この地から皇位要求運動を起こされた北山の宮(自天皇、地元では南天皇様とも)を中心に、後南朝の初めの頃から終焉までのお話しを、地域の歴史をかみしめ、一つずつ確認するように、語っていただいた。

長祿元年(1457)粉雪の降り続く夜半に、宿直三名の御所内に赤松勢が乱入、囲炉裏の間で血染めの変が置き、南朝王子の悲しい最期とともに、勾玉も奪われてしまう。私たちは、お寺のご厚意でこの囲炉裏の間に案内いただき、畳を上げ、当時の襲撃の際に付けられた床板に残る刀傷も見せていただいた。

この後、龍川寺の裏山にある自天皇の墓に参ったが、徳川幕府の応援もあったようで、享保8年(1723)に建立された墓石はたいそう立派なものだった。

四位殿神社では中岡神職の祝詞奏上

そして、いよいよお目当ての木和田の里の四位殿神社を訪れることに。

まずは、木和田の墓地に立つ福田家の

墓に参った。福田家の墓石には、安永7年(1778)建立と刻まれ、墓石の下部には菊水の紋が鮮やかに刻み込まれていた。福田家を含め、木和田の里に入った先人が、楠氏、とりわけ楠正行に関わりのあるものであることを示す貴重な墓石である。

晴天に恵まれ、陽射しを背に山道を登って行くと、杉や松の大木が林立する中で、少し平らな地が開け、立派



な鳥居をくぐると四位殿神社が鎮座している。

四位殿神社周辺はもちろん、社務所の屋根までがきれいに掃除され、私たちを迎えて下さる地域の皆様の思いを肌で感じながら、中岡さんは衣装を整え、神職姿に。

そして、祝詞奏上していただき、全員が拝礼をさせていただきました。楠正行が正四位下に叙されていたことは、楠正行通信61号、同63号でも触れたように、日本史人名辞典や小楠公墓所に建つ楠公碑にその旨記されているが、この日、東京から参加した広木さんの調べでも、『大日本史料』貞和4年(正平3年)1月5日条に引用される『系図纂要』(江戸時代末期成立の系図集)に、正行が正平2年に四位に叙されていたことが記されている、との情報を頂いた。

白川の里、お宮様十一面観音に对面

四位殿神社に参った余韻冷めやらぬまま、帰途、北山宮にお参りし、熊野路荘に戻り、宿が準備してくれた炬燵を囲んでの正行談義となった。話が途切れることはなかったが、私の準備したCD(小楠公：扇谷作詞)を聞いていただき、交替でお風呂に。

夕ご飯には中岡さんにも同席頂き、ここでも、宿が準備して下さった心づくしの珍味、料理にした包みを打ちながら、中岡さんを中心に正行談義が尽きることはなかった。中岡さんからは、地元の民謡のご披露もあり、アンコールに応え、北山鎌倉節を謳っていただき、大いに盛り上がった。

当初、ご自宅にお帰りの予定であった中岡さんも、熊野路荘の若女将のご配慮で同宿頂き、夜遅くまで、正行談義が尽きることはなかった。

2日目も、晴天に恵まれ、前日同様、ご準備いただいた2台の車に分乗して、一路白川の里へ。

白川又川には十郎という地名が残っており、高所の平らな山で、ここから武具の破片などが見つかっており、



この地には、恩智左近太郎の子孫が吉野に入り、上北山村の白川又川の山中に住み始めたとの伝承が残るとか。だから、白川の里の南にはおんじの里と呼ばれる地が残っていたが、現在は、水没している。

現在、水没後造成された高台の地には、源義経が伊勢越えをしたとき家来に与えたとされる八幡宮を祀る八幡神社があり、その境内に、かつておんじの里で祀られていた『お宮様』の祠が建っている。

この日、わざわざ、『恩智左近の守』の幟ばたも立てていただき、お宮様の祠を開扉の上、祠の中に祀られている十一面観音を見せていただいた。

想像していた以上に小さく、高さは約8.5センチメートルの木仏で、掛け仏になっていて、もともとは鐘を背にして掛けてあったとのこと。ふくよかな丸みを帯びた優しい、かわい顔立ちの観音さまで、見るものを引き付ける魅力があふれていた。

そして、場所を公民館に移して、昨日の龍川寺に続き、2度目の中岡さんのお話を聞くことに。



昨日からのお話も含め、上北山村の歴史や文化のお話をして頂いたが、この日は、上北山村中学校の先生が準備して下さったスクリーン映像が加わり、より理解が進むこととなった。

私たちの会のメンバーからも質問が飛び、和やかな雰囲気の中で、四條畷・千早赤阪・上北山村を結ぶ、楠正行・恩智左近・後南朝・天誅組にまつわるご縁を感じ、確認することとなった。

龍川寺、林泉寺で暖かいおもてなし

近畿全図を見ながら、上空から俯瞰すると、正行最期の地となった私たちの四條畷・飯盛山、正成・正行の本拠地千早赤阪・金剛山、吉野朝のあった吉野山、四位殿神社がありおんじの里のある上北山村は、ほぼ一直線上に繋がり、山の尾根伝いに走れば金剛山は上北山村からすぐその地にあることが分かる。

このようなことを確認し、今後、交流を深め、吉野朝・楠正行を通じた発信を共に、と最後の訪問地林泉寺へ向かった。

出迎えて下さった奥様とは二度目の出会いであったが、親しくご挨拶いただき、中岡さんからは「扇谷さんは、もう何度もこの地に来ておられるように見えますね。」と、喜んでいただいた。



仏事が入り、大変お忙しいところへお邪魔をしたが、本堂に入ると、「コーヒーを入れましょう。」と、お茶、コーヒーで歓待を受け、2日間を思い起こすような談笑で、あっという間に別れの時が。

熊野路荘で、中垣内教育長、中岡さんのお見送りを受け、仕入れで不在の若女将に替り女将さんに送られて、帰途のタクシーに乗り込み、一路、大和上市駅に向かった。

上北山村の皆さん。この度の私たちの現地学習、大変お世話になりました。心からのおもてなしに、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。(写真：表左、龍川寺での学習会・表右、四位殿神社で拝礼・裏左、十一面観音像・裏右、公民館での学習会・裏右下、林泉寺での学習会・いずれも国府世話人撮影)

(文責「四條畷楠正行の会」代表 扇谷昭)